

安全性データシート

改定日: 2017年11月3日

発行日: 2007年7月25日

SDS番号: 194A-20

セクション 1: 物質 / 混合物、および企業 / 業務の識別

1.1. 製品識別

785 パーティング潤滑剤 (エアゾール)

1.2. 物質または混合物の関連識別用途、並びに推奨用途

合成ベース。かじり、焼き付き、腐食、電食を防ぎ、金属部品の組立て、分解を簡単にします。  
酸素システムには使用しないでください。

1.3. 安全性データシートのサプライヤ情報

会社:

A.W. CHESTERTON COMPANY  
860 Salem Street  
Groveland, MA 01834-1507, USA  
電話: +1 978-469-6446 Fax: +1 978-469-6785  
(月-金: 8:30-5:30 PM 東部標準時)  
SDSの要求: www.chesterton.com  
Eメール (SDSに関する質問): ProductMSDSs@chesterton.com  
Eメール: customer.service@chesterton.com

供給元:

株式会社 明治屋  
神奈川県横浜市中区尾上町5丁目76番地  
TEL 045-681-2741 FAX 045-681-2731  
Eメール: contact-ches@meidi-ya.com

1.4. 緊急時電話番号

1日24時間、年中無休  
Infotrac (追跡) 電話番号: +1 352-323-3500 (料金受信人払い通話)

セクション 2: 危険有害性の要約

2.1. 物質または混合物の分類

2.1.1. 欧州規制1272/2008 [CLP] / GHSによる分類

エアゾール 1, H222, H229  
皮膚刺激性 2, H315  
STOT 単回暴露 3, H336  
水生慢性 2, H411

2.1.2. 追加情報

H(危険)ステートメントの全文: セクション2.2および16を参照。

2.2. ラベル項目

欧州規制1272/2008 [CLP] / GHSによるラベル付け

危険の絵表示:



信号語: 危険

<b>危険有害性情報:</b>	H222 H229 H315 H336 H411	極めて可燃性/引火性の高いエアゾール。 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ。 皮膚刺激。 眠気やめまいのおそれ。 長期的影響により水生生物に毒性。
<b>使用上の注意:</b>	P210 P211 P251 P261 P264 P271 P273 P312 P280 P312 P410/412	熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。 使用後の含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 蒸気/スプレーの吸入を避けること。 使用後、手を充分洗浄してください。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 保護手袋/保護眼鏡を着用すること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 日光から遮断し、50° C 以上の温度に暴露しないこと。
<b>補足情報:</b>	なし	

**2.3. その他の危険性**

なし

**セクション 3: 組成、成分情報****3.2. 混合物**

危険成分 <sup>1</sup>	重量%	CAS番号 / EC番号	CLP/GHS分類
水素化精製軽質石油留分*	35-45	64742-47-8 265-149-8	引火性液体 3, H226 (8-9%) 引火性液体 4, H227*** (30-31%) 吸引性呼吸器有害性 1, H304 皮膚刺激性 2, H315 STOT 単回暴露 3, H336 水生慢性 2, H411
水素化精製軽質ナフサ(石油)*	7-13	64742-49-0 265-151-9	引火性液体 2, H225 吸引性呼吸器有害性 1, H304 皮膚刺激性 2, H315 STOT 単回暴露 3, H336 水生慢性 2, H411
プロパン	1-5	74-98-6 200-827-9	引火性ガス 1, H220 圧縮ガス, H280
ブタン	1-5	106-97-8 203-448-7	引火性ガス 1, H220 圧縮ガス, H280
二酸化炭素	1-5	124-38-9 204-696-9	圧縮ガス, H280
メタノール	0.1-0.2	67-56-1 200-659-6	引火性液体 2, H225 急性毒性 3, H331/311/301 STOT 単回暴露 1, H370

その他の成分<sup>1</sup>:

マイカ	1-5	12001-26-2 310-127-6	分類されていません <sup>a</sup>
アルミニウム	1-5	7429-90-5 231-072-3	分類されていません <sup>ab</sup>
ラファイト	1-5	7782-42-5 231-955-3	分類されていません <sup>a</sup>

H(危険)ステートメントの全文: セクション16を参照。

\*ベンゼンの含有量は0.1 % w/w 以下。 \*\*1,3-ブタジエンの含有量は0.1 % w/w 以下です。 \*\*\*欧州CLPによらない分類。

<sup>a</sup>職場での暴露限界のある物質。 <sup>b</sup>可燃性と水反応性に対しては、それぞれ、国連テスト N 1 と N 5 に基づき、分類されていません。

<sup>1</sup>分類基準: \* 労働安全衛生法

\* 毒物および劇物取締法

\* GHS, 1272/2008/EC, REACH

## セクション 4: 応急処置

## 4.1. 応急処置情報

- 吸入:** 新鮮な空気のある場所へ移動してください。呼吸が停止している場合は、人工呼吸を実行してください。医師の診断を受けてください。
- 皮膚への付着:** 石鹼水で皮膚を洗浄してください。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。刺激が持続する場合は医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合:** 大量の水で目を最低15分間洗い流してください。刺激が持続する場合は医師の診断を受けてください。
- 呑み込んだ場合:** 無理に吐かせないでください。直ちに医師の診断を受けてください。

## 4.2. 最も重要な徴候と影響(急性および遅延)

皮膚刺激。直接接触すると目にかすかな刺激を与えることがあります。

蒸気は呼吸器系に刺激を与え、眠気、意識不明、頭痛、めまいその他の中枢神経の異常を起こすことがあります。

## 4.3. 緊急に医師の診察および特別な治療が必要な徴候

症状の手当てをしてください。

## セクション 5: 火災時の処置

## 5.1. 消火剤

**適切な消火剤:** 二酸化炭素, 乾燥薬品, 発泡 あるいは 水霧

**不適切消火剤:** 大量の水噴射

## 5.2. 物質または混合物から生じる特別な危険性

高压容器は加熱すると爆発する危険があります。

## 5.3. 消防の際のアドバイス

熱に晒された容器は水で冷却してください。消防士に自給式呼吸器の着用を勧めてください。

## セクション 6: 漏出時の処置

## 6.1. 作業者の注意、保護装備、緊急時の手順

その場を退去してください。充分換気してください。セクション8で指定された露出制御と人体保護を利用してください。

## 6.2. 環境に対する注意

下水、河川、水路に流さないでください。

**6.3. 閉じ込めおよび清掃の方法・材料**

流出分は小さな場所に回収してください。発火源に近づけないでください。禁煙。

発火源が除去できなければ、水で洗い流してください。

吸収性の材料(砂、おがくず、クレー等)で回収し、廃棄に適した容器に入れてください。注意 -  
こぼれた後床が滑りやすくなっているかもしれません。

**6.4. 他のセクションの参照**

廃棄処理についてはセクション13を参照してください。

**セクション 7: 取扱い及び保管上の注意****7.1. 安全な取扱いのための注意**

炎や白熱した材料に直接スプレーしないでください。発火源から離してください。禁煙。空気より重い蒸気は低部に溜まります。蒸気が蓄積すると、点火したときに発火や爆発を起こす可能性があります。

正しい就業態度を守ってください。炭化水素を使用する間、作業区域で飲食、喫煙をしないでください。

**7.2. 安全な保管のための条件 (配合禁忌を含む)**

日光から遮断し、50° C 以上の温度に暴露しないこと。換気の良い場所で保管すること。

**7.3. 具体的な最終用途**

予防策は特になし。

## セクション 8: 暴露防止及び保護措置

## 8.1. 管理パラメーター

成分	日本産業衛生学会 OEL		ACGIH TLV	
	ppm	mg/m <sup>3</sup>	ppm	mg/m <sup>3</sup>
水素化精製軽質石油留分	-	-	-	1200*
水素化精製軽質ナフサ(石油)	-	-	342*	1400*
プロパン	-	-	**	-
ブタン	500	1200	STEL: 1000	-
二酸化炭素	5000	9000	5000 STEL: 30000	9000 54000
メタノール	200	260 (皮膚)	200 STEL: 250	-
マイカ	(吸引可能) (総塵)	2 8	(吸引可能)	3
アルミニウム	(吸引可能) (総塵)	2 0.5	(吸引可能)	1
グラファイト	(吸引可能) (総塵)	2 0.5	(吸引可能) (吸引可能)	10 2

\*付録Hに記述されたACGIH TLVs®およびBEIs®の「ある種の精製炭化水素溶剤蒸気混合物の相互算出法」に基づく。

\*\*単なる窒息性

## 8.2. 曝露制限

## 8.2.1. 設備対策

通気の良い場所でのみ使用してください。許容限界を超える場合は、充分換気してください。

## 8.2.2. 作業員の保護対策

**呼吸器系の保護:** 通常不必要。許容限界を超える場合は、認可された有機蒸気呼吸マスクを使用してください  
(例: 欧州規格フィルタータイプ A/P)。

**手袋:** 耐薬品性手袋(例: Viton\*, ネオプレン、ニトリル)\*DuPont 社の登録商標。

**目 / 顔の保護:** 安全メガネ

**その他:** Chestertonの推薦する限界: 5mg/m<sup>3</sup> オイルミスト

## 8.2.3. 環境暴露措置

セクション6と12を参照。

## セクション 9: 物理的及び化学的性質

## 9.1. 基本的な物理・化学的性質に関する情報

形状	液体	臭気	穏やかな臭気
色	グレー	においの閾値	未定
初留点	94° C, 製品のみ	20°Cでの蒸気圧	未知
融点	未定	重量比芳香物含有率 (%)	未定
揮発率%(容量比)	69.5%	pH	適応せず
引火点	7.8° C	相対密度	0.9 kg/l, 製品のみ
方法	PM閉カップ, 製品のみ	係数(水/油)	適応せず
粘度	> 21 cSt @ 40° C, 製品のみ	蒸気密度(空気=1)	> 1
自己発火温度	未定	蒸発率(エーテル=1)	< 1
分解温度	データなし	水溶性	なし
高/低引火性あるいは高/低爆発限界	未定	酸化性	適応せず
引火性(固体、ガス)	極めて引火性の高い(噴霧剤)	爆発性	適応せず

## 9.2. その他の情報

なし

## セクション 10: 安定性及び反応性

## 10.1. 反応性

セクション10.3と10.5を参照。

## 10.2. 化学的安定性

安定

## 10.3. 危険な反応の可能性

通常の使用条件では危険反応は起こっていません。

## 10.4. 避けるべき条件

炎や高熱表面。200° C以上の温度で脱重合を起こし、極めて引火性の高いブタンモノマーを発生することがあります。

## 10.5. 配合禁忌薬品

液体塩素や濃縮酸素のような強力酸化剤。

## 10.6. 危険な分解物

一酸化炭素、二酸化炭素、アルデヒド、その他の有毒煙。

## セクション 11: 有害性情報

## 11.1. 毒性影響に関する情報

通常使用時の主な接触経路: 吸引、皮膚や目への付着。  
皮膚や目に既往疾患のある作業員が晒されると、症状が悪化することがあります。

## 急性毒性 -

## 経口:

物質	テスト	結果
水素化精製軽質石油留分	致死量50(LD50), 経口, ラット	> 5000 mg/kg
水素化精製軽質ナフサ(石油)	致死量50(LD50) 経口, ラット	> 5000 mg/kg
メタノール	致死量50(LD50) 経口, ラット	5628 mg/kg
メタノール	人体致死量	143 mg/kg

## 経皮:

物質	テスト	結果
水素化精製軽質石油留分	致死濃度50(LC50) 経皮, うさぎ	> 2000 mg/kg
水素化精製軽質ナフサ(石油)	致死量50(LD50) 経皮, うさぎ	> 2000 mg/kg
メタノール	最小致死量, 猿	393 mg/kg

## 吸入:

高濃縮蒸気は呼吸器系の炎症、眠気、意識不明、頭痛、めまい、その他の中枢神経の異常を起こすことがあります。

物質	テスト	結果
水素化精製軽質石油留分	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	> 5.2 mg/l
水素化精製軽質ナフサ(石油)	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	5.61 mg/l (ミスト)
水素化精製軽質ナフサ(石油)	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	> 23.3 mg/l (蒸気)
メタノール	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	64000 ppm(V)
ブタン	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	30957 mg/m <sup>3</sup>
プロパン	致死濃度50(LC50), ラット, 4時間	658 mg/l

## 皮膚腐食 / 刺激:

皮膚刺激。

物質	テスト	結果
水素化精製軽質ナフサ(石油)	皮膚の炎症, (OECD 405), うさぎ	刺激性
水素化精製軽質石油留分	皮膚の炎症, うさぎ	かすかな炎症 / 中等度の刺激性

## 重篤な目の損傷 / 刺激:

直接接触すると目にかすかな刺激を与えることがあります。

物質	テスト	結果
水素化精製軽質ナフサ(石油)	目の炎症, うさぎ	炎症なし / かすかな炎症
水素化精製軽質石油留分	目の炎症, うさぎ	炎症なし / かすかな炎症

**呼吸器または皮膚の感作:** 過敏症を起こさないとされています。

物質	テスト	結果
水素化精製軽質ナフサ(石油)	皮膚の過敏, モルモット	過敏性なし
水素化精製軽質石油留分	皮膚の過敏, モルモット	過敏性なし
メタノール	皮膚の過敏, モルモット	過敏性なし
グラファイト	皮膚の過敏 (OECD 429), マウス	過敏性なし
アルミニウム	皮膚の過敏, モルモット	過敏性なし (類推)

**胚細胞突然変異原性:** 水素化精製軽質石油留分, 水素化精製軽質ナフサ(石油), アルミニウム, グラファイト, メタノール: 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

**がん原性:** 本製品は、国際ガン研究機関(IARC)あるいは法規(欧州共同体)1272/2008の規定する発がん性物質を含有していません。

**生殖毒性:** 水素化精製軽質石油留分, 水素化精製軽質ナフサ(石油), アルミニウム, グラファイト, メタノール: 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

**STOT - 単回暴露:** 眠気やめまいのおそれ。アルミニウム, グラファイト: 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

**STOT - 反復暴露:** 長期にわたる暴露、度重なる暴露で臓器障害を起こさないとされています, 入手可能なデータによる長期間にわたるグラファイトやマイカの大量吸引は気腫や塵肺を起こしています。本製品に含まれるグラファイトは粉末状ではないので、通常の使用では危険はありません。

**吸引性呼吸器有害性:** 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

**その他の情報:** 既知の影響なし

## セクション 12: 環境影響情報

本製品用に特別に決定された生態毒性データはありません。以下の情報は類似した物質の成分と生態毒性に基づいています。

### 12.1. 毒性

長期的影響により水生生物に毒性。水素化精製軽質ナフサ(石油): 48h EL50(ミジンコによる半数影響濃度) 3 mg/l, 類似物質。

### 12.2. 持続性・分解性

水素化精製軽質石油留分, プロパン, ブタン, 水素化精製軽質ナフサ(石油):

生分解は大気環境で数日から数週間以内に起こります。水素化精製軽質石油留分: かなり速く生分解すると考えられています。

水素化精製軽質ナフサ(石油): 直ちに生分解可能とされています。

### 12.3. 生物蓄積の可能性

水素化精製軽質石油留分, 水素化精製軽質ナフサ(石油): 魚や水生生物内で生体内蓄積することがあります。プロパン, ブタン:

水生生物内の生物濃縮度は低いと考えられています。水素化精製軽質石油留分: オクタノール / 水分配係数(log Kow) = 2.1 -

6.5。水素化精製軽質ナフサ(石油): オクタノール / 水分配係数(log Kow) = 2.1 - 5, 推定。

### 12.4. 土壌中の移動性

液体, 非水溶。環境移動性を決定する際は、本製品の物理、化学特性を考慮してください(セクション9参照)。溶剤

[ストッダード溶剤、石油ガス、ナフサ] は環境に放出されると急速に空气中に蒸発します。水素化精製軽質ナフサ(石油):

沈殿物と廃水固形物に分離するとは考えられていません。

### 12.5. PBT・vPvB評価の結果

入手不可

### 12.6. その他の悪影響

既知の影響なし



**セクション 13: 廃棄上の注意****13.1. 廃棄処理方法**

汚れたものは、正式に認可された設備で焼却してください。密閉用器は適切な設備で焼却してください。  
地方自治体、国家条例を調べ、最も厳しい条件を遵守してください。

**セクション 14: 輸送上の注意****14.1. UN番号**

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: UN1950  
TDG: UN1950  
US DOT: UN1950

**14.2. UN固有輸送名**

ICAO: Aerosols, Flammable  
IMDG: Aerosols  
ADR/RID/ADN: Aerosols, *flammable*  
TDG: Aerosols, *flammable*  
US DOT: Aerosols, *flammable*

**14.3. 輸送危険性分類**

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 2.1  
TDG: 2.1  
US DOT: 2.1

**14.4. 梱包グループ**

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 適応せず  
TDG: 適応せず  
US DOT: 適応せず

**14.5. 環境への危険性**

環境危険性なし

**14.6. ユーザーへの特別な注意**

使用に関する特別な注意はなし

**14.7. Marpol 73/78附則IIIによる貨物輸送およびIBCコード**

適応せず

**14.8. その他の情報**

US DOT: Shipped as Consumer Commodity ORM-D in packaging having a rated capacity gross weight of 66 lb. or less (49 CFR 173.306(i)). ERG NO. 126

IMDG: EmS. F-D, S-U, Shipped as Limited Quantity

ADR: Classification code 5F, Tunnel restriction code (E), Shipped as Limited Quantity

**セクション 15: 適用法令****15.1. 物質または混合物に固有の安全性・保健・環境規制 / 法規**

日本PRTR	クラスI薬品: なし	クラスII薬品: なし
--------	---------------	----------------

その他の国内規制: なし.

**セクション 16: その他の情報**

**略語一覧:** ACGIH:米国産業衛生専門家会議  
ADN:内陸水路による危険物の国際輸送に関する欧州協定  
ADR:道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定  
ATE:急性毒性推定値  
BCF: 生物濃縮係数  
cATpE: 変換後の急性毒性推定値  
CLP:分類、ラベル、包装に関する法規(1272/2008/EC)  
GHS:世界調和システム  
ICAO:国際民間航空機関  
IMDG:国際海上危険物規定  
LC50:試験動物の50%を死亡させる致死濃度  
LD50:試験動物の50%を死亡させる投与量  
LOEL:最小作用量  
NOEC:最大無作用濃度  
NOEL:最大無作用量  
N/A:該当せず  
PBT:難分解性、生物蓄積性および有毒性を有する物質  
PEL:許容暴露限度  
REACH:化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制(1907/2006/EC)  
RID:鉄道による危険物の国際輸送に関する規定  
SDS:安全性データシート  
STEL:短時間暴露許容濃度  
STOT: 特定標的臓器毒性  
TDG:危険物輸送に関する勧告(カナダ)  
TLV:暴露限界  
US DOT:米国運輸省  
vPvB:極めて難分解性で高い生物蓄積性を有する物質  
その他の略語はwww.wikipedia.orgで調べることができます。

**主な参考文献およびデータ出典:** 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(通称 ナイト、NITE)  
欧州化学物質庁(ECHA) – 化学物質に関する情報  
スウェーデン化学物質庁(KEMI)  
米国国立医学図書館毒物学データネットワーク(TOXNET)  
化学分類および情報データベース(CCID)

## GHSによる混合物の分類方法:

分類	分類手順
エアゾール 1, H222	成分ベース
皮膚刺激性 2, H315	算出方法
STOT 単回暴露 3, H336	架橋原理「希釈」
水生慢性 2, H411	算出方法

**関連するH(危険)-ステートメント:**

- H220: 極めて可燃性/引火性の高いガス。
- H222: 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール。
- H225: 引火性の高い液体および蒸気。
- H226: 引火性の液体および蒸気。
- H280: 加圧ガス; 熱すると爆発のおそれ。
- H301: 飲み込むと有毒。
- H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
- H311: 皮膚に接触すると有毒。
- H315: 皮膚刺激。
- H331: 吸入すると有毒。
- H336: 眠気やめまいのおそれ。
- H370: 臓器の障害。
- H411: 長期的影響により水生生物に毒性。

**危険の絵表示名:** 炎, 感嘆符, 環境

**本改訂によるSDSの変更:** セクション 3, 4.1.

**その他の情報:** なし

本情報は使用物質の供給元が発行したデータにのみ基づいており、混合物自体に基づくものではありません。  
 使用者の特別な目的に対する製品の適合性に関する保証は一切明示、暗示されていません。  
 適合性は使用者自身が決定しなければなりません。